

ASUKA SHIKIBA

Ceramic works

- Japanese -

式場 あすか

陶を素材として創作活動を続けている。

人々が関わることを目的とした作品を展開し、視覚以外の感覚を体感することで、制作者と鑑賞者が共に創造できる作品を目指す。

経歴

1993 千葉県出身

2018 東京藝術大学美術学部工芸科 卒業

2019 - 2020 トルコ・アナドール大学美術学部 陶磁器科 留学

2022 東京藝術大学美術研究科修士課程 陶芸専攻 修了

受賞 2018 三菱地所賞（東京藝術大学卒業制作展「輪」）

展示歴

2025

『Play!with Arts』 (Gallery Rei.)

2024

『Distance』 (K art Gallery)

『伝統の記憶』 トルコと日本の国交樹立100周年

（トルコ Bolu Abant İzzet Baysal University）

『三越×藝大2024～夏の芸術祭～』 （日本橋三越）

『葛西臨海公園アートマルシェ』

『七つの陶』 （桃林堂 青山本店）

『食・礼賛2』 （Gallery TK2）

2023

『七つの陶』 （桃林堂 青山本店）

2022

『食・礼賛』 （Gallery TK2）

『Space』 個展 (Gallery TK2)

『七つの陶』 （桃林堂 青山本店）

『東京藝術大学修了制作展』 （東京藝術大学 大学美術館）

2021

『藝大アートプラザ大賞展』

『KUGURU展』 （千葉県市川市、真間山弘法寺）

『第57回 杜窯会作陶展』

『銀茶会』

『ころがる、まるまる』 2人展 (Tree B cafe)

2018

『東京藝術大学卒業制作展』 (東京都美術館)

『Ceramic Work Exhibition2018』 (東京、天王洲)

『第55回 杜窯会作陶展』

『ぶらまちアート2018～歴史・町・広島竹原藝術祭～』

『藝大アーツイン丸の内』

2017

『Ceramic Work Exhibition2017』 (東京、天王洲)

『第54回杜窯会作陶展』

2016

『TOUGEI』 (東京藝術大学)

『BREAING THE MOLD』 (US.New Hampshire)

2015

『さんさんてん』 (東京藝術大学)

『さんさんてん2』 (東京藝術大学)

2014

『からだ展』 (銀座)

指導歴

2025 アルゼンチン

Casacusia(難聴者のコミュニティ)Casahogar(女性の聾者の施設)にてワークショップを実施
「Cuenco Vibrante -振動する器-」
(TURN×BIENNALSULプロジェクト)

2022-2024 東京藝術大学 集中講義 工芸制作実習 8日間「暮らしを彩る器」

2024-2025 東京都立大塚ろう学校 小学校6年生「オリジナルの時計で時を刻もう」
陶製の時計の制作
(東京都特別支援学校 芸術教育の推進事業)

2025 やまぼうしの会 2日間

たたら成形で造形し、和紙染めの講習を実施

2024 トルコ

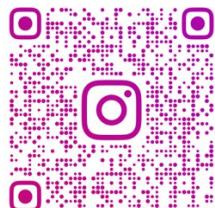
アナドール大学 美術学部陶磁器科 4日間 和紙染めの講義を実施
(Erasmus+ Staff Mobility Program)

2022 東京都立板橋支援学校 自分たちにとっての「いのり」や「お守り」を制作
-土偶や縄文土器の痕跡から-
(東京都特別支援学校 芸術教育の推進事業)

2018 広島県竹原市 東野小学校 6年生

「オープン粘土でオリジナルのマグネットを作ろう」
(ぶらまちアート2018～歴史・町・広島竹原藝術祭～ 学校交流)

インスタグラム・ウェブサイト



ASUKA.SHIKIBA_CERAMIC



<https://shikibaasuka.wixsite.com/mysite>



Gallery Rei. 「Play! with Arts」

「 ideas 」

2025.03.11- 23

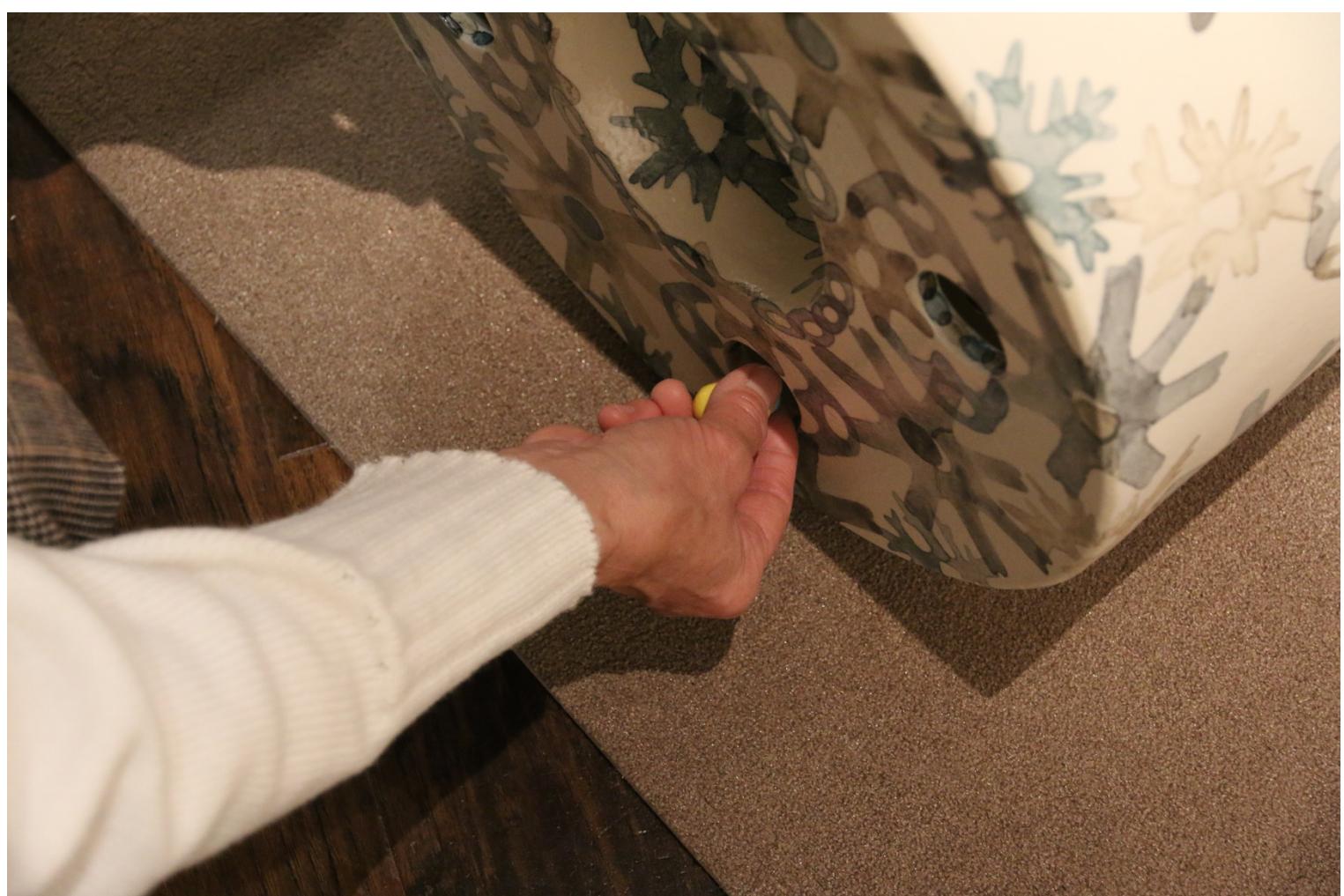
何かを思いつく際の脳内について考えた。

人の創造的思考は準備→あたため→閃き→検証の段階がある。

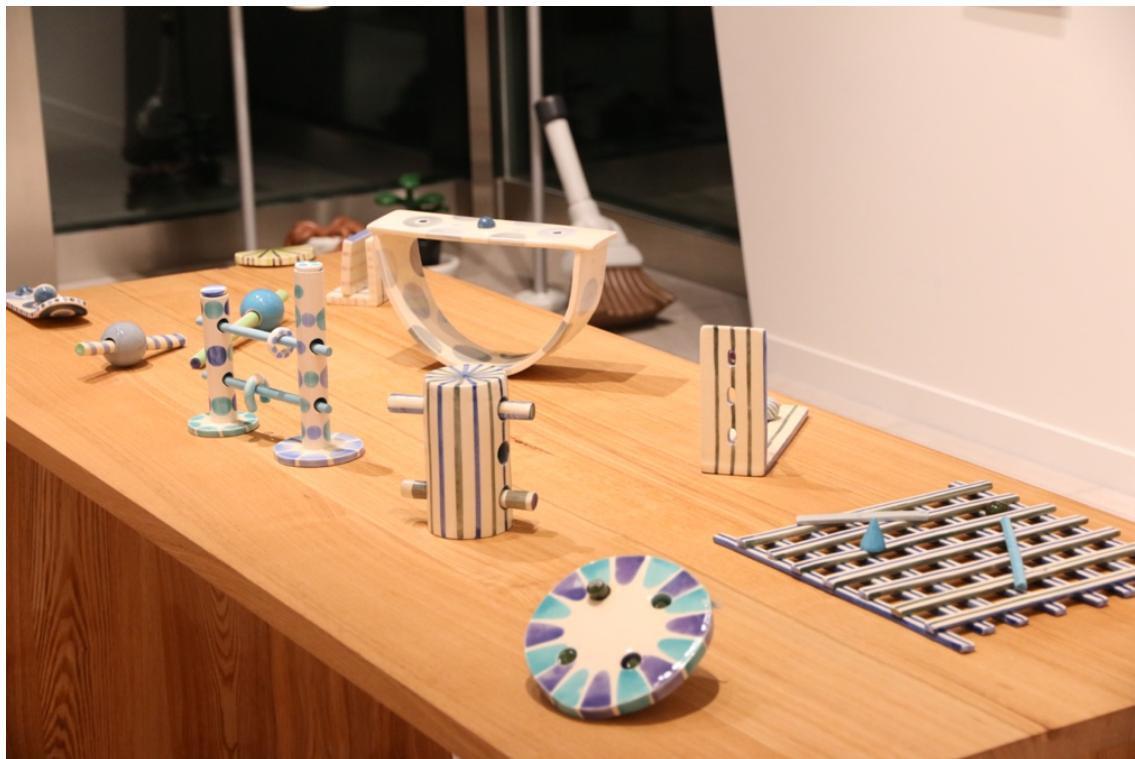
閃き期は悶々と考えて、考えることを一旦やめて、ふと緊張が緩んだ時に記憶と記憶が繋がって何かを思いつく。

作品は新井式回転機(通称:ガラガラ)から発想を得ている。idea は当たりくじの様なものかもしれない。

カラフルな陶の玉を穴から入れ、出てきたらまた入れる動作を繰り返す。中々出ない時もあれば一気に何個も出てくる事もある。模様は脳内細胞をデザインし、和紙染めにて装飾している。







K Art Gallery 企画展「Distance」

2024.11.22-12.22

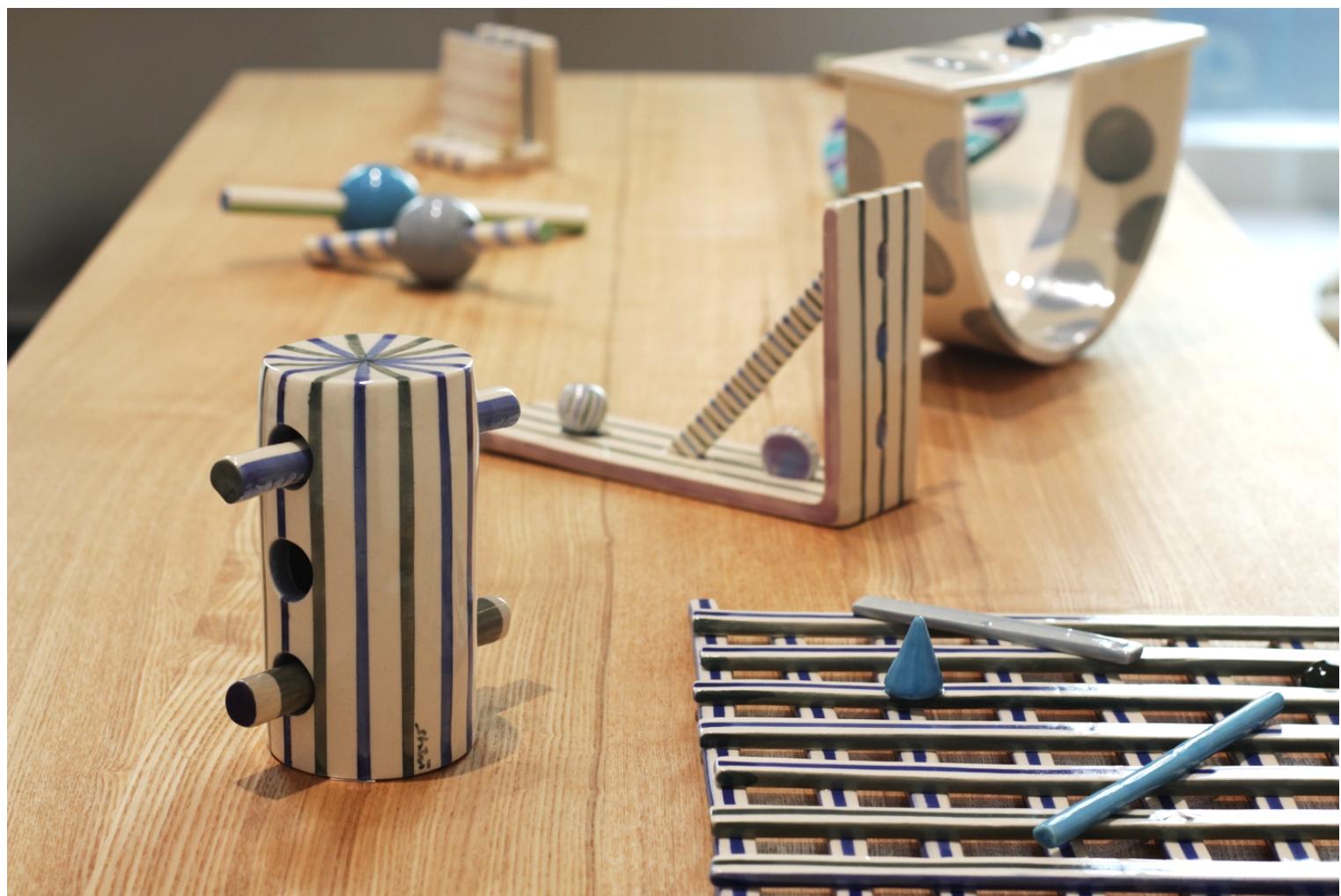
ギャラリーのテーブルから着想を得た作品。

以前から私のテーマであった“アフォーダンス”的原点に立ち返り、

日常の中にある形、使っている道具、繰り返される動作に着目し、様々な形状の作品を制作した。

揺らしたり、引っ掛けたり、置いたり、差し込んだり、、、作品によって人の動作が変わる。

誰もがどこかで見たことのある、記憶を思い出す様な作品を目指している。





IMITUKOSHI × 東京藝術大学 夏の芸術祭 2024

「 circulation 」

日本橋三越本店 美術特選画廊

2024.08.21-08.26

最近は“循環”をテーマとして、中の陶の球が一周する形状にこだわって制作していたが、その場に留まって行ったり来たり、浮遊する事もある意味で循環と考えた。

パイプの本数を1本ずつ増やしていくと、様々な形状が生まれる。

持ち方、鳴らし方、置き方は自由で、形状や人によって異なる動作や配置、音が奏でられる。

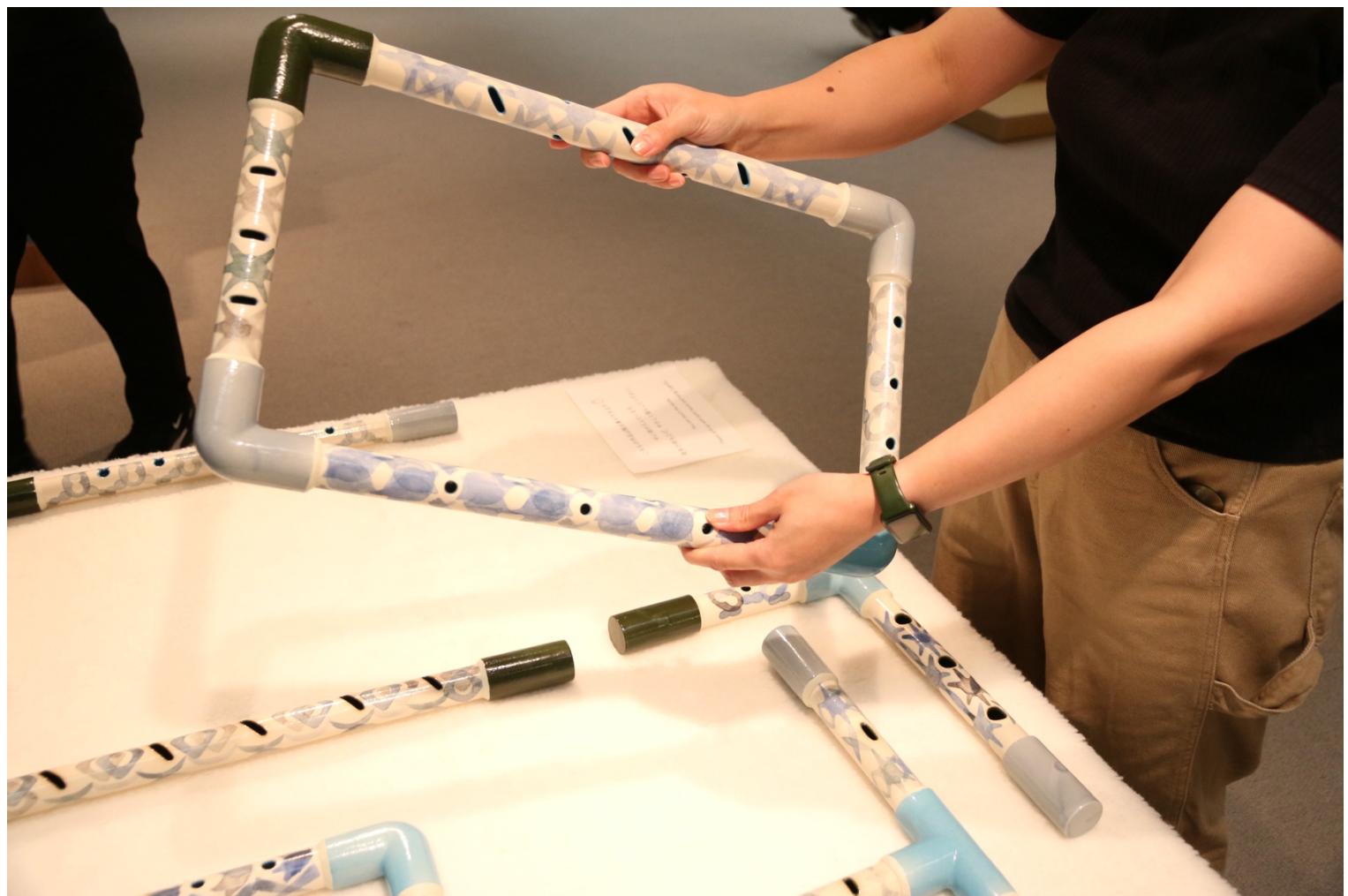
こちらの作品は触る事ができます

中に球が入っています。
両手で持ち上げ、やさしく揺らしてください。

You can touch the works.

Please pick up with both hands and swing it gently.







Gallery TK2 企画展 「食・礼賛 2」

「 cycle 」

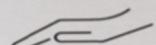
2024.01.17-01.28

私たちが食べたものは消化器官を通り、体内の微生物によって分解されている。

作品の形状は消化器官を水道パイプに見立て、組み合わせている。

中には陶の球が入っており、手を持って揺らす事によって様々な音を奏でる。

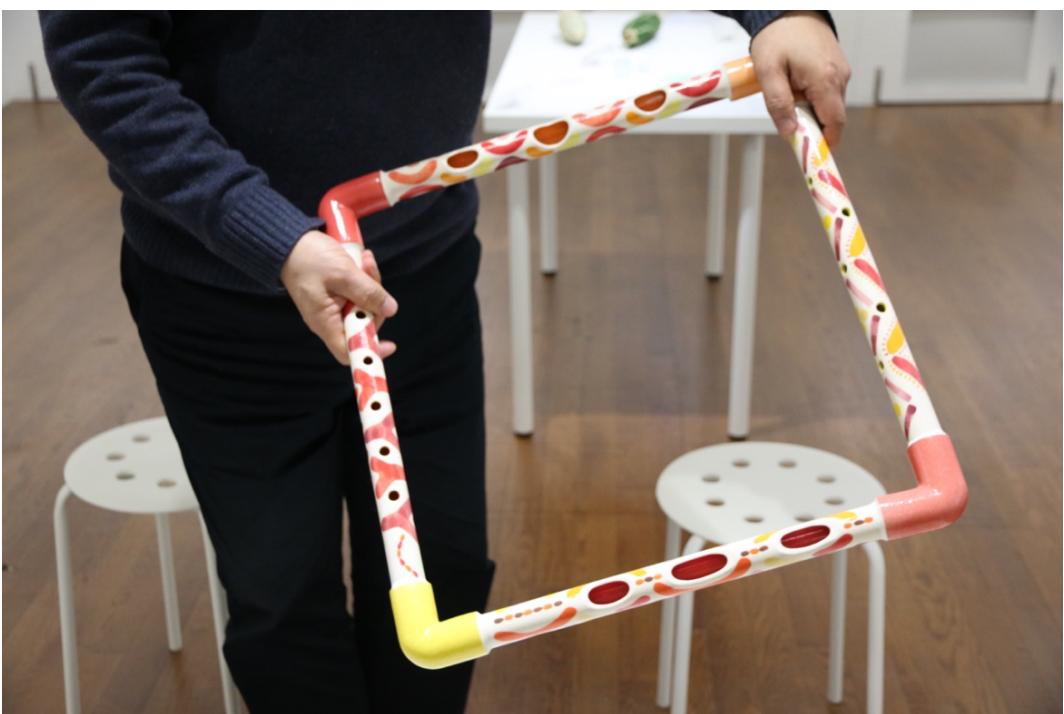
式場 あすか
「cycle」



作品は、さわることができます。

中に球が入っています。

両手で持ち上げ、やさしく揺らしてください。





Gallery TK2 企画展 「食・礼賛」

「cycle」

2022.11.30-12.11

私たちが食べたものは消化器官を通り、
体内や排水処理場の微生物によって分解される。
一部は自然に還り、再び体内を通過する。

その経過を体感する事で
目に見えない循環を再認識することができるのだろうか。

今回の展示作品「cycle」は、
体験ができる作品です。

球を輪っかの上部の穴の中
に、入れてみてください。





Gallery TK2 個展

「Space」

2022.9.7~9.18

今回の作品に行き着いたのはこのギャラリーの1室(1区切り)の空間について考え始めたことがきっかけである。ひとつの大きな箱の様なこの空間は限られている様でそうでは無い、思考や記憶が循環する人間の脳または星が廻る宇宙空間と重なった。

作品が置かれた1室に人が加わる事で物体との距離感を捉え、
作品の一部となる。

お互いの距離や関わりについて
どのような感覚を味わう事が出来るだろう。

式場 あすか
「Space」

作品は、さわることができます。

ゆっくりと、まわしてみてください。







2022

100 × 140 × 160mm

de:composition

“新しい物体を作る”という事に抵抗を覚え、なかなか粘土を手に取れなかった。

展示後は作品の置き場所に苦労し、焼き物の制作現場にいると“割って捨てる”という行為を頻繁に見る。
自分の作品を割って捨てるのは、
まるで処刑台へ連れて行くようだ。

何かが捨てられていくのを見るのはいつも辛い。

新しい物を作る事だけが前に進むことでは無いと強く思うのだが、
私の身体自体が新しいものを取り入れて、古いものを排出して生きているし、
女性の体だから新しい人間を産み出すことが可能かもしれない。
新しいものはなんでも、必ず過去のものと繋がっている。

過去の作品が思い出のような感覚になる前に、
それを用いて新しいものと古いものの中間のような作品を作ろうと思った。

現段階での思考を表してみようと思い、ようやく制作を始めた。
割る(分解する)という行為を意図的に加える。
そして、新しい物体で再結合する。

分解した作品は修了制作展に向けて作った一部分。

乾燥で割れた為、展示には出さなかった。



2022

240 × 110 × 100mm



2022

130 × 150 × 130mm



Size : 1200 × 800 × 600mm

東京藝術大学 修了制作展

Park

2022.1.28～2.2

東京藝術大学 大学美術館



Concept

内側と外側、その境界はどこにあるのか。

内側にいると外に出たくなり、外側にいると内に戻りたくなる。

それを幾度か繰り返してきた。

細胞の模様が描かれた内側に入る事で“核”となり、また外側に出て、移動を繰り返す。

これは無意識で体内で行われている細胞の動き（細胞分裂）を意識的に体外で再現することになる。

Park、それは“一時的な滞在”である。

陶の中に入ったとき、人は何を創造するだろう。また、ここは最後に辿り着く場所なのだろうか。

Where is the border between the inside and the outside?

When I'm inside, I want to go outside, and when I'm outside, I want to go back inside.

I've repeated that many times.

By entering the inside where the pattern of the cell is drawn, you become a "cell nucleus" and go outside again and repeat the movement.

This is the movement of cells (cell division) that is unconsciously performed in the body.

You will be consciously reproduced outside the body.

Park, it's a "temporary stay".

I wonder what will you feel when you enter the ceramics?

Perhaps, this is the last place you will reach.









式場あすか くずはらまり 2人展

ころがる、まるまる

2021.12.2～12.18

Coya gallery DEN & Tree B café (作品は小庭にて展示)

”球を好きなところに置いてみてください。”

ころがる、まるまる。というテーマから連想して2人で各々の詩を綴った。その詩は自身のことでもあり、そして誰かを想っているような言葉だった。私は、私達の言葉を一旦切り取って、分解し、陶の球に乗せ、焼き付けることにした。

球は来る人々によって言葉と色、大きさなどを選ばれ、意思を持ち、ひとつひとつの居場所を見つける。
それをまた動かすのも自由、そのままにしておくのも良い。



夜の展示風景







第1回 Kuguru展 千葉県市川市 弘法寺

『 When you draw someone's heart 』

2021

市川の昔話「真間の手児奈」を題材に“心の井戸”を制作した。

井戸の中を「体内」、割れ物である焼きものを「壊れやすい心の内」と考え、

その中に影響を与える他者との関わりを見つめる。

視覚だけではなく、聴覚、触覚も体感する事ができる。

